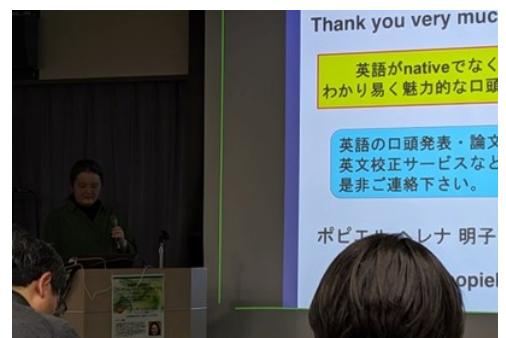
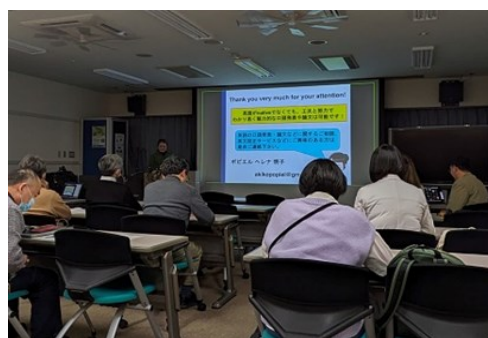


令和5年度の研究力アップ講座は、3月4日(第14回)および3月28日(第15回)の2回、ハイブリッドにて開催いたしました。(生体調節研究所とオンライン)

第14回は、「効果的な英語のプレゼンテーションを目指そう!～バイリンガルからのアドバイス～」と題して、東京医科大学国際教育研究センターのポピエル ヘレナ・明子先生にプレゼンテーションの準備方法、実践方法から国際会議での振舞いにいたるまで、多岐にわたる内容をご講演いただきました。「英語をうまく話すこと」ではなく「研究成果を知ってもらう」ことが発表目的であることを忘れないこと、発表資料作成や想定質問とその回答作成などの準備に十分な時間をかけることが重要であることを改めて深く認識できるご講演でした。国際会議において、「同国の研究者同士が集まって国の言葉で話す」ことは、他国の研究者との会話や交流を減らすことになるため慎んだ方が良いとのアドバイスが印象に残りました。(参加者：対面21名、オンライン47名)

第15回は、「研究者のサイエンスコミュニケーション」に関するご講演を基礎生物学研究所広報室の倉田智子先生に行っていただきました。ご自身も研究者としてのキャリアをお持ちの倉田先生は、基礎生物学研究所の研究成果や研究者をこよなく愛しておられるご様子でした。研究成果を社会にどのように還元し、魅力的な研究者を広く一般の人々にどのようにアピールしていくかを、ご自身の実践経験に基づいてお話しいただきました。様々なメディアを駆使し、思いついたアイデアをすぐに実行される倉田先生の行動力には終始驚かされました。「研究者・研究成果のアピール」について学ぶ貴重な機会となりました。(参加者：対面19名、オンライン29名)

お忙しい中、講師を務めてくださった先生方、ご参加いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。



■発行
国立大学法人群馬大学
ダイバーシティ推進センター

〒371-8510
群馬県前橋市荒牧町4-2
TEL: 027-220-7146
FAX: 027-220-7143
mail:kyodo-sankaku@ml.gunma-u.ac.jp
HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/

「生理の貧困」の問題に目を向けてみよう

「生理の貧困」の問題のあらまし

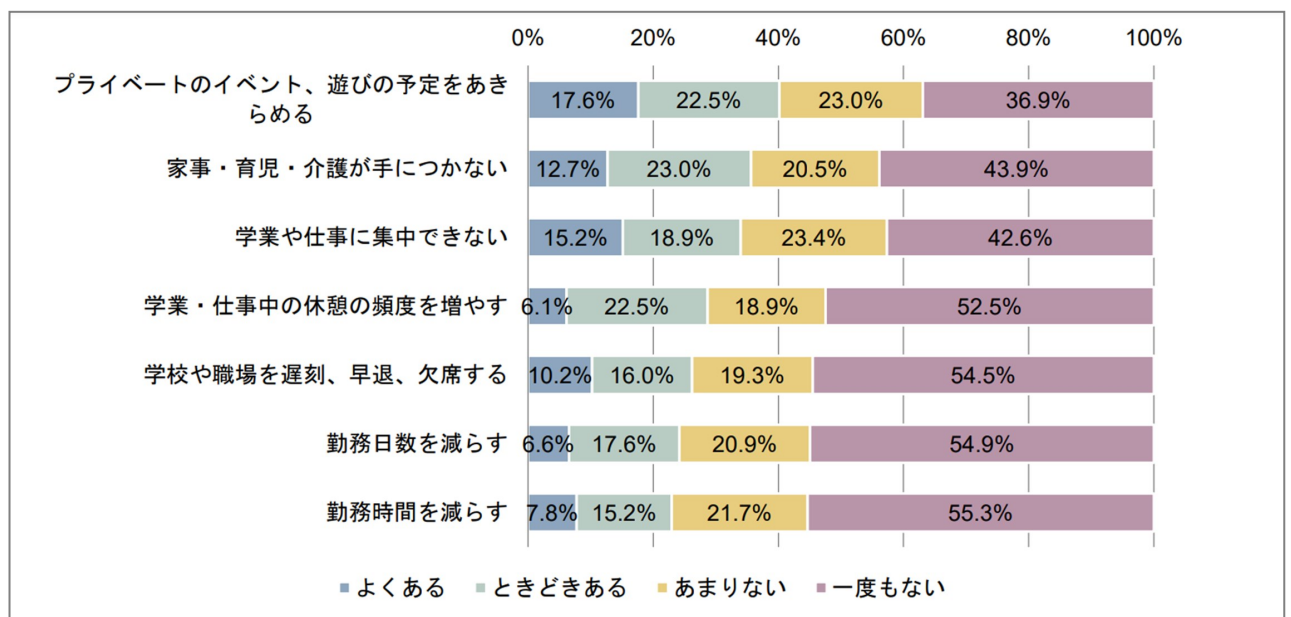
「生理の貧困」の問題を知っていますか？

経済的な理由などから生理用品を購入できない「生理の貧困」の問題は、2017年にイギリスで調査がなされたことをきっかけに欧米を中心に問題意識化され、日本では新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに顕在化しました(参考文献 1、2)。

「生理の貧困」は、第5次男女共同参画基本計画の第7分野「生涯にわたる健康支援」にある、男女が互いに身体的性差を理解し合うこと、女性特有の健康課題への支援、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ等の支援と関わるものです(参考文献 3)。

「生理の貧困」の問題によってどういうことが起きるのでしょうか？

外出控えや不衛生な状態が続くことによる健康障害が生じるだけでなく、心的ストレスを与え、女性の社会進出の機会損失につながります(図1)(参考文献 4)。



注) %表示の小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある

図1. 新型コロナウイルス感染症発生後(2020年2月頃以降)に生理用品を購入・入手できないことが理由で経験したこと(参考文献 4)

「生理の貧困」は経済的な問題だけでしょうか？

答えはノーです。家族構成や家庭での健康教育の不足などの家庭環境が生理用品の入手困難の要因となっているケースも「生理の貧困」に含まれます(参考文献 1、2)。「生理の貧困」を解決するには、生理用品の設置だけでなく、健康教育や社会的要因とも関連づけて検討する必要があります。

「生理の貧困」の問題への取り組み

全国の地方自治体の取り組みの状況は？

2021年からの調査時より進んでいます。2023年7月調査時の「生理の貧困」に係る取り組みを実施している地方公共団体は全1794団体中950団体で、2021年7月調査時の581団体と比べ全国的に増加しています。また、無償提供の周知や方法も工夫がなされ、衛生面の確保や利用者の心理的不安の軽減がはかられています(参考文献 5)。

群馬県における取り組みの状況は？

群馬県は2021年に全国で初めて県による公共施設(全ての県立学校や県有施設)で生理用品の提供する取り組みを開始していますが(参考文献 6)、群馬県における「生理の貧困に取り組む」地方公共団体の割合は47%(2023年7月時点)であり、今後も取り組みの余地がある状態といえます(参考文献 5)。

群馬大学では取り組みがなされていますか？

理工学部および大学院理工学府で取り組みがなされています。2021年度に保護者からなる後援会理事会にていただいた「生理貧困」への取り組みに関するご質問をきっかけに、後援会による助成のもと2022年度秋より生理用品の設置を整備しました。事務室のある建物の1階もしくは2階のトイレに、必要な学生はどなたでも利用できることを多言語(日本語、英語、中国語)で記載したポスターの掲示とともに容器にいれて設置しています。利用に関しては「貧困」を前提としていません。

さいごに

円安や物価上昇の続く昨今、学生の生活面への経済的影響がないとはいえません。経済的・社会的なことは声をあげにくいため、生理用品の設置に加え、学生に支援できることを検討していきたいと考えています。理工学府・理工学部での取り組みをきっかけに、本学に所属するすべての女性学生の大学生生活の安定化を図ることが望まれます。

(参考文献)

1. 生理の貧困とは？本来の意味や問題点を、対策事例とともに専門家が解説
ジヨコネ。代表取締役 北奈央子 朝日新聞 解説 2023年1月13日掲載
2. 「生理の貧困」ってなんだろうー言えない、買えない問題の背景は
Yahoo!ニュース オリジナル 特集編集部 Yahoo!ニュース 2021年7月2日配信
3. 男女共同参画白書 令和5年度版 内閣府 男女共同参画局
4. 「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」厚生労働省 2022年2月
5. 「生理の貧困」1. 地方公共団体の取組 内閣府 男女共同参画局
6. 「生理用品 群馬県が無料提供へ 県の施設に配布機導入も」朝日新聞デジタル 2021年5月3日配信

【案内】令和6年度託児費用補助の申請について

今年度も「群馬大学入試業務と育児の両立に関する託児等費用補助」の申請を開始しました。入試業務や学会出張の際に託児サービスを利用した場合に、その費用の一部を補助します。申請には諸条件がありますので、詳しくはホームページをご確認ください。



令和6年度(R6.4.1~R7.2.28)
入試業務・学会出張における託児費用の補助を行います
群馬大学 ダイバーシティ推進センター

群馬大学に勤務する教職員が、令和6年度(R6.4.1~R7.2.28)に入試業務や学会出張などを行う場合、託児サービスを利用した場合には、その費用の一部を補助します。

対象者：本学に勤務する教職員で、①次のいずれかに該当し、中学校就学期の子の保育に協力を利用する者。
② 講師・兼任にのみ入試業務(大学入試共通テスト、大学及び大学院入試、編入試験)等に必要となる者。
③ 講師の必要出張を行う学術研究会等の学会に参加するため(平日を限る)

補助金額：1日分の申請につき1万円を上限とし、毎月1回に限り1万円を上限とします。支給は3月以降に行います。
※申請多数の場合はダイバーシティ推進センターの学内内で配分いたします。

対象の要件：保育サービスの施設、ファミリーサポートセンター及びNPO等。ただし、家庭や近隣保育所など(センター等は対象外)を利用するサービス提供センター等の場合は申請は認められません。なお経費の発生に限り、必ず保育の補助の費用を請求してください。ただし、下記の項目は補助対象にのりませんのでご注意ください。
(1) 特別支援学級の入費費及び保育費
(2) 保育所の費用に充当する費用
(3) 通常の月保育費に含まれている費用(対象となる項目に適用はしていない場合)
申請方法：申請書(様式第1号)に、届け先の担当部署で用紙が用いられるハンプレット等を添付し、**職員・ダイバーシティ推進センター(現職)に申請**してください。学費等に追加の補助は、対象外となります。必要の際は、事務局へお問い合わせください。

申請の締切：入試・学会等当日の15日以前までです。

手続：申請が承認された場合は、担当者の利用申請書の中に、補助費の申請が用いられるハンプレット等を添付し、事務局及び請求書(様式第2号)、出納簿の写し(必要に限り講師・兼任の領収書の写し(入試)、旅行費用等の写し(出張))を職員・ダイバーシティ推進センターへ提出してください。

問い合わせ：事務局(電話) 027-253-5100
令和7年3月5日(水)

※申請内容が下記までご連絡ください。
群馬大学ダイバーシティ推進センター 現職センター(3階)103
事務局(中庭7号室)
book@diversity@gun-u.ac.jp
http://book.diversity@gun-u.ac.jp

令和6年度共同研究促進事業 採択者決定

多数の応募の中から厳正な審査の結果、下記の方々が採択されました

A型：外部資金の獲得や大型の共同研究等をめざしプロジェクトリーダーとなる共同研究に対する助成

- 向後 晶子 (医学系研究科)
- 六本木 麗子 (医学系研究科)
- 岡見 雪子 (食健康科学教育研究センター)

B型：研究開発の契機や共同研究の発展に資する研究会等の実施に対する助成

- 鈴木 景子 (医学系研究科)
- 法月 拓也 (生体調節研究所)
- 杉石 露佳 (理工学府)
- 川崎 愛理 (理工学府)
- 鈴木 真粧子 (理工学府)

ダイバーシティ推進センター

令和6年度

年間スケジュール

- 7~9月 オープンキャンパス参加
- 9月 全学ランチミーティング
- 10月 令和7年度研究活動支援事業募集開始
- 11月以降 シンポジウム
- 性の多様性講座
- 研究力アップ講座

※現時点の予定となりますので変更や中止の場合もございます。予めご了承ください。